

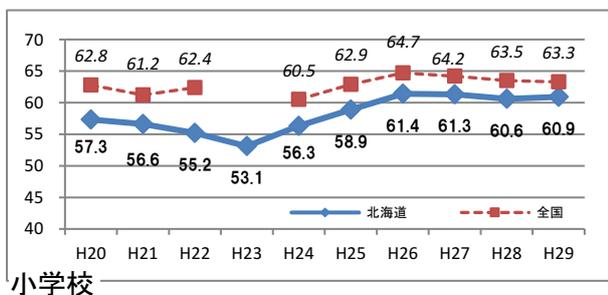


## 北海道の子どもたちの読書にかかわる状況

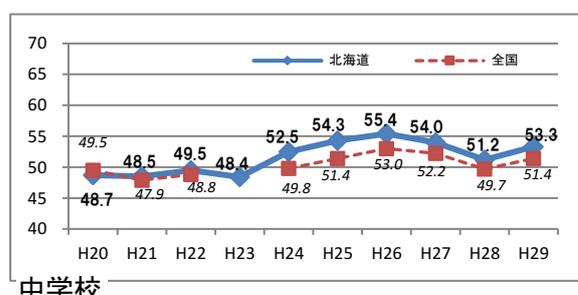
8月に今年度の全国学力・学習状況調査結果が公表されました。児童生徒質問紙の読書に関わる質問項目では、「1日10分以上読書する児童生徒」（グラフ参照）や「読書が好きな児童生徒」が、小・中学校とも昨年をわずかに上回りましたが、引き続き子どもたちが読書の楽しさに触れ、意欲を高める取組を推進する必要があります。

全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査から

### 【学校の授業時間以外に、普段、1日当たり10分以上読書する児童生徒】



小学校



中学校

## 各地の子ども読書応援団の取組紹介

すべての子どもたちに本の楽しさを！

### 読み聞かせボランティア「にじいろ」(札幌市)

札幌市の読み聞かせボラン

ティア「にじいろ」は、平成18年7月に札幌市中央区で設立され、「すべての子どもたちに本の楽しさを！」をモットーに、子育てサロン、保育所、幼稚園、小学校、養護学校、道立文学館等で年間50回以上、読み聞かせなどの活動を行っています。

昨年は、7月に札幌市福祉ボランティア奨励賞を受賞したほか、9月には活動10周年を記念して、国指定重要文化財「豊平館」で「絵本の読み聞かせ in 豊平館」を開催しました。

また、本年7月には、「平成29年度第1回地域学校協働活動推進研修会(道央会場)」において、地域学校協働活動や放課後児童クラブ等で活動されている方々を対象に、子どもの読書活動を促進する読み聞かせの基本的な技術や、季節に応じた本の選び方等に関する講師を務めました。

代表の神原さんは、「これからも活動の輪を広げ、様々な人との出会いを大切にしながら、子どもたちの読書活動を推進していきたい」と話していました。



## 絵本を通じて心豊かに

### おはなし会「いないいないばあ」（むかわ町）

胆振管内むかわ町のおはなし会「いないいないばあ」は、子どもたちが絵本と触れ合う時間を大切にしたいと思う方々を中心となり、平成10年1月に活動がスタートしました。現在、会員は12名で、毎月1回の「おはなし会」をはじめ、週1回の小学校での朝読書の時間や中休みにおける読み聞かせ、福祉施設のデイサービスでも絵本の読み聞かせを行っています。

就学前の子どもやその保護者等を対象とした「おはなし会」では、絵本や紙芝居の読み聞かせのほか、手遊びやパネルシアター、工作や体操なども交え、参加した子どもやお母さんが楽しみながら、本と出会えるよう工夫もしています。小学校で定期的に読み聞かせを行っているので、街を歩いていると、子どもから挨拶をしてくれるのが、とても嬉しいとのこと。

今後も、未来を担う子どもたちが、たくさん本に触れ、創造力を広げ、心豊かに成長していくことを楽しみにしながら活動を続けていきます。



学校での読み聞かせ



おはなし会の様子

## 「ぽけっとおばさん」が優しく語りかける

### マザーズぽけっと（今金町）

「マザーズぽけっと」は、旧今金幼稚園の絵本の部屋の整備の際に、本好きのお母さんたちが集まったことがきっかけとなり、平成15年に発足しました。グループ名は、母親のエプロンのポケットの中に、楽しいお話が一杯詰まっている、とのイメージで付けられました。

発足当初は、毎週町内の幼稚園で読み聞かせをすることから活動が始まりましたが、次第にいろいろなところから声がかかり、活動の幅が広がっていきました。

発足から14年経った現在では、20代から60代までの幅広い年齢層のメンバーで活動しています。内容は、町内の介護老人福祉施設や小学校、保育所での定期的な読み聞かせ、町内外のイベントへの出演、町民センター図書室のおはなし会の運営、今金町移動図書館車広域活用事業への協力等です。

今金町が推進する「読書と作文のまち」ワーキングチームにも参画するなど、子どもたちの成長を見守る活動や子育てする気運を高める活動などが高く評価され、平成20年に「優良読書グループ北海道表彰・北海道地域活動振興協会理事長賞」を受賞しました。また、平成22年に高橋はるみ知事より「ほっかいどう子育て応援大賞」が授与され、平成26年度には、子どもや若者を育成する活動として、内閣府特命担当大臣表彰（チャイルド・ユースサポート章）を受賞しました。

今後も、メンバー自身楽しみながら長く活動を続けるとともに、本好きの子どもが増えることを願い、地域に貢献できるように活動を続けていきます。



クリスマスおはなし会の様子

## 「聞く楽しさ」を「読む楽しさ」に変えてつなげる読み聞かせ

遠別町の読み

### 読み聞かせボランティア「ぐう・ちょき・ぱあ」(遠別町)

聞かせボランティア「ぐう・ちょき・ぱあ」は、「本が好き」という共通の思いをもつ会員が集まり、趣味を生かしながら、絵本等の読み聞かせ技術を高め、会員相互の交流を図るとともに、地域の文化振興に寄与することを目的に、平成17年に設立されました。

本会では、毎月1回、町内の認定子ども園や小学校で読み聞かせを行っています。また、秋の町民文化祭では、「おはなし会」を開催しています。他にも、地域の読書環境の充実に向け、小学校図書館のブックカバー掛け作業を行ったり、子どもたちがより本の世界を楽しむことができるように、ロールシアターやパネルシアターを手作りで製作しています。

本会の設立10周年を迎えた平成28年度には、地域のボランティア団体としての功績が認められ、第40回「道新ボランティア奨励賞」を受賞しました。

代表の中島さんは、「読み聞かせを聞いてくれる子どもたちのまなざしに、喜びを感じながら、これからも活動をしていきたい」と話していました。



## 子どもたちに本を好きになってもらうために

浜頓別町の「浜頓別町なかよし童

### 浜頓別町なかよし童話会(浜頓別町)

話会」は、「子どもに本の楽しさを知ってもらいたい」という共通の思いをもつ母親たちが集まり、昭和56年4月に発足しました。昭和59年8月から平成18年3月までテレホンサービス「お話し電話」を行っていました。現在は、童話会や青空童話会、クリスマス会などで本の読み聞かせや、紙芝居、人形劇などを行い、積極的に読書活動の普及に取り組んでいます。

このような取組から、昭和63年に「北海道優良読書グループ表彰」、平成4年に「全国優良読書グループ表彰」、平成5年に「北日本図書館事業功労者表彰」、平成6年に「北海道図書館協議会連合会表彰」、平成23年に文部科学大臣表彰「子どもの読書活動優秀実践団体」と数多くの表彰を受賞しています。

今年度も、年6回の活動を予定しており、童話会では、絵本の読み聞かせと紙芝居、体験活動などを組み合わせたプログラムを実施することにより、子どもたちは、楽しみながら本に親しんでいました。

代表の大澤さんからは、「子どもたちに本を好きになってもらうために、今後も『細く長く』をモットーに活動を続けていきたい」とお話しいただきました。



クリスマス会の様子

## 「子どもの心を育てる」読み聞かせ活動

### 図書館ボランティア「どんぐりの会」(大樹町)

「図書館ボランティア『どんぐりの会』」は、平成6年に発足し、大樹町図書館を拠点として、絵本の読み聞かせや詩の朗読など、地域の読書活動の普及に努めています。

本サークルの主な活動は、毎月1回土曜日に大樹町図書館が入っている生涯学習センター内の和室で、幼児や小学生等を対象としたおはなし会を開催したり、町内の小学校に出向き、絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びなどを行っています。

また、老人健康施設の敬老会、節分などの行事、町内のボランティアのつどい等の町内のイベント、さらに他町村からの依頼を受けて図書館行事に参加することもあります。内容は、大型紙芝居、大型絵本、エプロンシアター、カーテンシアター、パネルシアターなどです。参加対象者や公演時間に合わせてプログラムを工夫しています。

本サークルでは、今後も読み聞かせ活動をとおして、子どもたちに読書の楽しさや絵本のよさを伝えながら、「地域に根差した活動を地道に続けて行く」ことを大切にしていきたいと考えています。



親子で楽しめる  
土曜おはなし会



イベントで人気の  
エプロンシアター

## 親子読書会の活動を原動力に

### 「読書会 一休さん」(根室市)

根室市の「読書会 一休さん」は、1年間を通して親子で読書に親しむ「1年生親子読書会」として、図書館の呼びかけにより昭和61年5月に発足しました。

その後、子どもたちの高校卒業を機に、母親会員のみで活動を継続するとともに、まちの「読書ボランティア」として地域における読書活動の普及に取り組んでいます。

主な活動は、市内の小学校や児童会館を訪問し、絵本や紙しばいの読み聞かせや市図書館の子ども向け行事や研修会等への支援を行っています。

平成19年度には、地道に積み上げてきた取組から、文部科学大臣表彰「子どもの読書活動優秀実践団体」を受賞しました。

去年は、発足から30周年を迎え、記念事業として2014年三浦綾子文学賞を受賞した『颯風(ぐふう)の王(おう)』の作者 河崎秋子氏を招き、講演会を開催しました。根室が登場する作品として、大変興味深くその魅力を広く市民の皆さんに紹介する機会となりました。

今後も読書の楽しさを伝えながら、地域に根ざした子どもたちの読書活動を応援していきたいと思います。

